

保育者養成課程における 保育技能検定の取り組みの意義と可能性について

正司 顯好・栗本 浩二・落合 知美
土井 晶子・前徳 明子・高林穂津美
岩崎 桂子・伊藤 陽一・黒沼 茉未

Significance and Potential of Initiatives of “Practical Training of Child-Care Skills” in Child-Care Worker Training Course.

SHOSU Akiyoshi・KURIMOTO Koji・OCHIAI Tomomi
DOI Akiko・MAETOKU Akiko・TAKABAYASHI Hozumi
IWASAKI Keiko・ITO Youichi・KURONUMA Mami

キーワード：保育者、保育技能、実践的な応用力

はじめに

埼玉東萌短期大学の前身である東萌保育専門学校（以下「本校」とする）では、幅広い教養と総合的視野に基づく保育観をもち、豊かな人間性、優れた専門的知識と技能を備えた保育者の育成を目指している。そこで、保育の基礎技能を習得する一環として「ピアノ」、「手遊び」、「折り紙」、「自然」、「なわとび」の5つの項目について、「保育技能検定100」に取り組んでいる。竹林実紀子¹⁾は「保育技能の探求」のなかで、保育技能について「子どもを自在にあやつるための手段としてではなく、目の前の子どもの状態とその後の変化の様子を、そのときの保育技能を手掛かりに把握することができ、育ちを考えることもできるようになる」と論じ、「保育技能で重要なのは、知識の量ではなく、それを適切に使用できるかどうかである」と言及している。本校で行っている「保育技能検定100」とは、「総合演習」という卒業必修の中で行う取り組みであり、独立した単位ではない。学生が実習・就職で役立てることができ

るように、級を設定し段階を追いながら身につくように配慮している取り組みである。

本稿では、本校で実施している「保育技能検定100」の取り組みから得た効果を、卒業生や在学生へのアンケート調査をもとに明らかにするとともに、保育者養成課程における保育技能検定の意義とその可能性について考察し、今後の課題についてまとめる。

I. 保育技能検定100の考え方及び特色

乳幼児期にふさわしい保育の技能とは何であろうか。乳幼児期の保育は家庭で養育された子どもの力をさらに家庭外にあるさまざまな事象に向けて伸ばしていくものである。園でのさまざまな活動を通して子どもが身につけたものは、次第に積みあげられながら、小学校以降の学校教育や将来自立していくための生活の基盤となっていく。それだけに乳幼児期は人生の基礎基本となる土台作りの期間であり、この期間を豊かに充実させることができるかどうかはその後の人生にも大きな影響力を与えるものである。

よって、保育者は子どもの発達に必要なことを、

その子どもに配慮しながら、それにふさわしい保育内容方法で援助し、子どもが自分の力で成長していくために導かなければならない。したがって保育の技能というものは、保育者が子どもを自在にあやつるための道具ではなく、子どもをより深く理解し育み伸ばしていくための方法でなくてはならない。

家庭から学校への移行の期間としての乳幼児期において、子どもはこの世の中を構成するさまざまな事象と出会い、そこでの関わりを通して次第に成長していく。その出会いは、時に人であり、動物であり、植物であり、絵本であり、ピアノであり、手あそびであったりする。また、他者との交流を図るための言葉であったり、自分の考えや感じ方を表す表現方法であったりもする。そういったものとの出会いのなかで、それが何でありどのように成り立ち、どのように自分に関わってくるのか。本校では、それらを理解した上で、子ども自身がどのように関わっていけるのか、子どもの思いに寄り添い導き、育んでいくための方法としての保育の技能でなければならないと結論づけた。

検定内容の項目については、「保育に必要なことは現場から学べ」という本校の教育方針の一つである現場主義に則り、当時の副校長を中心として、直接、現場の保育園に出向き、各園の理事長、園長先生方から現場が求める保育技能について聞き取り調査を行った。その結果、本校があらかじめ設定した項目「ピアノ」(2年後に音楽に変更)、「手遊び」、「折り紙」、「植物」(3年後に自然に変更)、「なわとび」が重要であるという意見を確認することができた。

現場が求める保育技能の聞き取り調査を軸に、さらに校内の討議を深めた。聞き取り調査をした現場が求める技能は、学生が将来現場で活躍するために必要とされる技能であり、それは本校が目指す「子どもの思いに寄り添い導き、育んでいくための方法としての技能」の習得が必要であるとする見解とほぼ一致した。よって、これらの5項目を学生の力量に合わせて4級から1級までの校

内検定として設定し、各級ごとの「ねらい」も明らかにした。在学2年間で保育士資格の取得を目指すための本校独自のシステムとして、一步一步着実に習得しながら上級を狙えるような校内「保育技能検定100」を確立した。

Ⅱ. 保育技能検定100とは

「保育技能検定100」では、ピアノ、手遊び、折り紙、自然、なわとびの5つの項目について、検定方式により4段階の検定を行っている。この保育技能検定のねらいは、保育の基礎技能を身につけることにより現場で役立つ実践的な応用力を養っていくことである。8月を除く、毎月1回(主に月曜日の3時限目、4時限目)を保育技能検定100の実施日として全学年、全教員で取り組んでいる。具体的には以下のような内容である。

1. ピアノ

平成20年度に改訂された「保育所保育指針」²⁾「幼稚園教育要領」³⁾にある5領域の表現においても、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通じて、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」とあり、その内容に「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう」とある。このことから保育における音楽の位置づけがなされている。また、同指針・同要領の解説書によると「保育士等は、子どもにとって心地よい音楽、楽しめるような音楽との出会いを大切にしていかなければなりません」とあり、保育者が音楽に対する環境設定を整えることの重要性を解説している。

これらのことを踏まえて、本校における保育技能検定の項目にある音楽は、聴覚の敏感な乳幼児に対する音楽環境を、実際に多くの保育現場で使用しているピアノで表現することとした。ピアノの基礎技能から保育現場で使用されている曲を保育技能検定に組み込み、この保育技能検定を修了し保育者として保育現場で活用した際に、子ども

たちは音への関心や音楽への親しみを感ずることができると考えている。

2. 手遊び

本校では100種類の手遊びの習得を目指し、保育技能検定を行っている。手遊びの特徴として、道具を使わないでいつでもどこでも楽しく手軽に楽しめ、保育現場で活用することができる。さらに、「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」の5領域で「歌ったり、手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ」と明記されていることから、手遊びは重要である。

このようなことから、保育者として、子どもたちに意義ある手遊びが展開できるような援助ができるように、保育技能検定に取り組んでいる。また、手遊びは保育者と子どもの間に、スキンシップによる信頼感や安心感を培うきっかけとして、大切な役割を果たすことから、単に手遊びを正確に行うだけではなく声の大きさや動作、笑顔なども保育技能検定のポイントにしている。これらのポイントを基準として、手と手の触れ合いや、表情のやり取りを行うことによって、コミュニケーションをとりながら子どもたちと向き合えることを目指し保育技能検定に取り組んでいる。

3. 折り紙

折り紙も音楽と同様に、「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」の5領域の表現に属するものと考えられる。その表現のねらいのなかで「いろいろな物の美しさなどに対する豊かな感性を持つ」、「感じたこと考えたことを自分なりに表現して楽しむ」、「生活のなかでイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」とあり、また、内容についても「水、砂、土、紙、粘土などの様々な素材に触れて楽しむ」、「生活のなかで様々な音、色、形、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり、感じたりして楽しむ」、「かいたり、つくったりすることを楽しみ、それを遊びに使ったり、飾ったりする」とある。

このように折り紙は、主に紙を媒体にして表現

活動を行うことができる。また、折り紙の作品には、花、動物、道具、乗り物、装飾物などの身近なものがある。保育者が多種多様な作品を作ることができることにより、それらをひとつの道具・手段・媒介として、保育を展開させ、子どもの遊びのなかに取り入れ、発展させることができる。このように、折り紙を折ることの楽しさを伝え、子どもたちの創造性や表現する力を高める効果があると考えている。

4. 自然

自然については、「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」の5領域の環境に「身近な動植物をはじめ自然現象をよく見たり、触れたりなどして驚き、親しみを持つ」とある。また、5領域の健康に「進んで戸外で遊ぶ」とあり、子どもたちは、自然とふれあいながら、かかわりながら、さまざまな遊びに展開していくことができる。

保育現場では、お散歩の時などに身近な植物の名前を覚えたり、葉や実などを採集して食べたり、おもちゃを作ったりすることが、自然に親しむきっかけとなっている。そして、子どもたちは植物の四季折々の変化に触れることで、自然の豊かさや大切さについて分かるようになる。そのため、保育技能検定の自然では、この自然の豊かさや大切さについて、それぞれの級で、本稿の周辺に生息する植物25種類計100種類の観察を行い、観察ノートを作成する。植物の名称やその特徴、四季折々の変化などについて学ぶことを目標としている。

5. なわとび

なわとびは、「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」の5領域の健康で「自分の身体を十分に動かし、進んで運動しようとする」とあり、乳幼児期の運動遊びに有効と考え、本校の検定に取り入れている。なわとびには、乳幼児期に習得すべき84種類の基本的動作が多く含まれている。とぶ・くぐる・まわる・ひっばるなど様々な運動に活用され、全身運動として脚の筋力を養うだけではな

く、呼吸循環系の発達など身体の機能を育てることに効果的であると考えられている。さらに、縄が1本あることによって場所をとらずにいつでもどこでも気軽に行えたり、跳ぶ活動を通してリズム感、タイミングなどを育てたりすることができる。そして、縄の長さを調節することによって友達との集団遊びや、歌に合わせて色々な動作を組み合わせるにより遊びは発展し、子どもたちは高度なものに興味をもてるようになると考えられる。

なわとびの跳び方を習得することは、保育者自身が運動遊びのひとつであるなわとびの楽しさを体感できるよう援助することや、跳び方のポイントを理解することの大切な要因になってくるのではないだろうか。

Ⅲ. 検定基準とその方法

保育技能検定100では、ピアノ、折り紙、自然、手遊び、なわとびの5種があり、4級から1級までの4段階の技能検定を合格することが目標になっている。それぞれの検定合格基準とその方法については、以下のとおりである（資料1）。

1. ピアノ

ピアノの検定においては4級を受検する前に、「音楽Ⅰ」と「音楽Ⅱ」の授業でバイエル楽曲（89番まで）を修了していることが、保育技能検定100のピアノを受検できる前提となっている。また、正規の授業以外でも課外授業として、「ピアノグレード」で取り組んでいる。ピアノの検定の具体的な内容としては、4級は、バイエル89番までを修了することと、弾き歌いのレパートリー1曲を暗譜することである。3級は、生活の歌3曲と弾き歌いのレパートリー7曲を暗譜することである。1・2級は準と正の2つがあり、準2級は、生活の歌4曲と弾き歌いのレパートリー10曲を暗譜することである。正2級は、初見（初級）2曲を弾くことと、弾き歌いのレパートリー20曲を暗譜することである。準1級は、初見（中

級）2曲を弾くことと、弾き歌いのレパートリー35曲を暗譜することである。正1級は、初見（上級）2曲を弾くことと、弾き歌いのレパートリー20曲を暗譜することである。

検定は、各級ともに1回きりの受検で途中の失敗、またはやり直しも不合格とし、再受検となる。

2. 手遊び

手遊びでは、2年間を通して100種類の手遊びの基本形を練習し、その後、応用したり歌詞を変えたりできるようにしている。各級でテキスト^{注1)}を基に25種類ずつ覚えて、子どもの前で行うことができることを目指している。手遊びは、子どもたちの集中を促したり、次の活動への導入やコミュニケーションとして用いられるため、「笑顔」「声の大きさ」「動作」をポイントに検定を行っている。検定では、検定を受ける学生と検査を行う教員との距離を十分に取り、くじ引きで3種類を決定し、残り2種類は検定範囲から自由に選択する。

この検定では、手遊びを25種類、完璧に覚えることが目的ではなく、子どもの前で堂々と楽しそうに行えることを目的にしているため、多少の歌詞の間違いや動作の違いがあっても合格する場合もある。

3. 折り紙

折り紙の検定は、指定されている折り紙のテキスト^{注2)}を用い、4級25種、3級25種、2級25種、1級25種の合計100種の折り紙を覚えることが検定の目標になる。保育現場で子どもたちと折り紙を折る際、紙の角と角をしっかりと合わせたり、きちんと折り目を入れたり、色を塗ったり、切れ目を入れたりといった丁寧さ、正確さも大切である。従って、検定合格基準として、折り方をしっかりと再現できるほかに、丁寧さ、正確さも含まれている。

この折り紙検定では、毎回、各級の25種類のなかからランダムに選ばれた5種を検定として折りあげ、5種類すべてが合格基準を満たしている

場合に合格となる。

4. 自然

自然では、1年を通して四季折々の身近な植物（畑の野菜や果物も含む）を観察し、植物の名称やその特徴、四季の変化などについて学ぶことを目標にしている。具体的には、1級から4級それぞれの級で、25種類の植物観察を行い、観察ノートを作成する。観察ノートについては、各級で25種類の植物について観察し、写真を撮り、その特徴についてまとめている。4級は主に春の植物、3級は主に夏の植物、2級は主に秋、冬の植物を指定し、観察する。1級は、4級から2級で指定されていない植物を対象とし、本校から半径1km以内で自ら植物を選び、観察して調べる。

各級の検定を受ける際に、25枚（種類）の観察ノート（資料2）を提出し受検資格を得る。検定内容は、各級の対象植物に合わせ出題される。写真を見て、その植物の名称について回答する問題が5問、植物の特徴について○×で回答する問題が5問に、エキストラ問題が1問あり、計11問出題し、8問以上正解で合格となる。

5. なわとび

なわとびでは、4級から1級にかけて、基本的な跳び方から応用まで4つの跳び方を検定に取り入れている。4級では、前回しと後ろ回しをそれぞれ15秒以内で連続して25回跳ぶという検定を行っている。3級では、けんけん跳びでの前回しと後ろ回しをそれぞれ10秒以内で連続して25回跳ぶという検定を行っている。2級では、かけあしとびでの前回しと後ろ回しをそれぞれ連続して25回跳ぶという検定を行っている。1級では、あやとびでの前回しと後ろ回しをそれぞれ連続して25回跳ぶという検定を行っている。

全ての級において、1回でも失敗した場合はその場で不合格となる。そのため、学生は緊張感をもって検定に取り組んでいる。

IV. 調査の概要

1. 調査目的

本校における保育技能検定の取り組みから得た効果を在校生と卒業生へのアンケート調査から明らかにすることを目的とする。

2. 調査対象

本校の在校生（73名）、卒業生（106名）：卒業生の内訳は、3期生33名、4期生42名、5期生31名である。また、在校生の内訳は、6期生16名、7期生57名である。

3. 調査方法

記述式アンケート（資料3：A4サイズ両面コピー1枚）を実施した。主なアンケート内容は、1）基本事項（性別、年齢）2）卒業の有無（職歴と経験年数含む）、3）保育技能検定の効果、4）保育技能検定の取り組み姿勢、5）保育技能検定の仕事での活用、6）保育技能検定のプライベートでの活用、7）自由記述であった。在校生、卒業生計179名に対しアンケートを実施し、83名（46%）の回答が得られた。

4. 調査時期

平成22年6月8日から7月31日の間に実施した。

5. 倫理的配慮

本調査の実施においては、保育技能検定における特定の学生のデータを取り扱うのではなく、本校が実施している保育技能検定の取り組みについて質問し、調査結果の集計においては匿名化を図った。

V. 調査結果

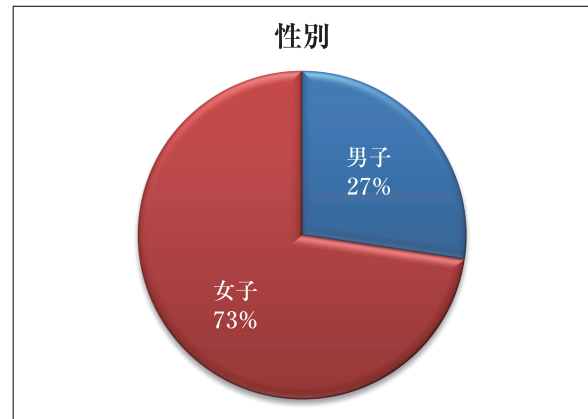
1. 基本事項

性別、年齢については、下記のとおりである。

性別

女子（61 名；73%）
男子（23 名；27%）

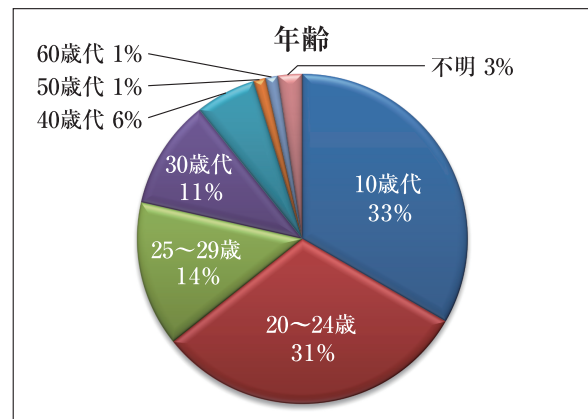
（図 1）



年齢

10 歳代 （28 名；33%）
20 ～ 24 歳 （26 名；31%）
25 ～ 29 歳 （12 名；14%）
30 歳代 （9 名；11%）
40 歳代 （5 名；6%）
50 歳代 （1 名；1%）
60 歳代 （1 名；1%）
不明 （2 名；3%）

（図 2）



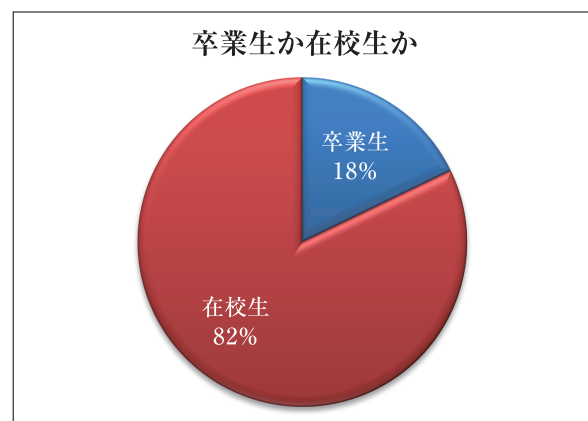
2. 卒業の有無

卒業生か在校生かについては、下記のとおりである。

卒業の有無

在校生（69 名；82%）
卒業生（15 名；18%）

（図 3）



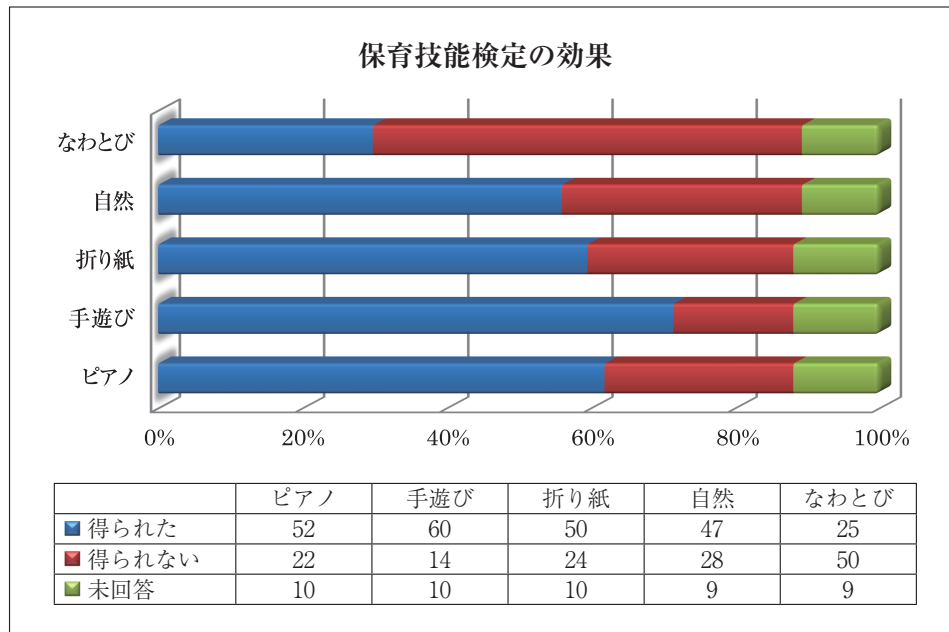
3. 保育技能検定の効果

検定の効果については、図 4 のとおりである。

保育技能検定の効果については、ピアノ 52 人（62%）、手遊び 60 人（71%）、折り紙 50 人（60%）、自然 47 人（56%）と 4 つの検定において過半数を超える学生が効果を得られたと実感している。また、なわとびについて、効果を実感している学生は 25 人（30%）にとどまっている。

また、各項目の保育技能検定の効果が得られた理由、得られない理由についてその理由を自由記述で問う設問の回答を表 1 ～ 5 に示す。

(図 4)



ピアノ

(表 1)

得られた	実践場面での活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育現場では朝や帰りの挨拶が大切で、子どもの目をひくのに重要な役割をもっている ・ 保育現場で使えてためになった
	スキル向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的に向かい集中的に行う（練習）ことでスキルが得られた ・ 弾き歌いができるようになった ・ 子どもが知っている曲を弾けるようになった
	意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期限を決めてもらわないとなかなか努力しないから ・ 自分でもやれば少しずつでもできるようになると考えた
得られない	未受検 (検定要件を満たしていない ^{注3)})	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受検していないため得られていない ・ まだバイエルが終わっていない
	意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・ ピアノは難しい
	実践場面での未実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習で実践する場がなかった ・ まだ働いてないので効果はないが働いたら役に立つと思う

手遊び

(表 2)

得られた	実践場面での活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現場でとても大切だと思う。就職後の導入がスムーズに行えた ・ 給食前に行くから ・ 実際に現場で使っているから
	スキル向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知らなかった手遊びが覚えられた ・ レパートリーが増えた
	意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・ 覚えようとする意欲が湧いた ・ 将来保育者になる上で役立ちそうだから ・ お気に入りの手遊びが見つかったから
得られない	未受検	<ul style="list-style-type: none"> ・ まだ受検していない
	意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・ テキストを見てやっても分からない
	実践場面での未実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現段階で「効果」というのは実感できない ・ まだ働いてないので効果は分からないが、働いたら役に立つと思う
	活用できず	<ul style="list-style-type: none"> ・ その場限りだった

折り紙

(表 3)

得られた	実践場面での活用	・時間が空くと忘れてしまうが、一度覚えたことはすぐ思い出し現場で実践できたため ・実習中に子どもに折り紙で何か作ってと言われたとき
	スキル向上	・現場に戻った時に使えるレパートリーが増えた ・昔作ったものが折れなくなっていたので、卒業後の仕事に活用できる
	意欲	・覚えようとする意欲が湧いた ・検定があるので勉強し覚える
得られない	未受検	・まだ受検してないからわからない
	意欲	・子どもたちに教えられる範囲を超えたものがある ・なかなか覚えられない
	実践場面での未実施	・実習で使わなかった ・職場で利用する場がない
	活用できず	・その場限りだった ・検定が終わると忘れてしまうから

自然

(表 4)

得られた	実践場面での活用	・散歩でお花を教えるから ・子どもに花の名前を聞かれて答えられた ・散歩等の現場活動時にとても効果が得られた。子どもの探究心に答えられ効果を感じた
	スキル向上	・花の知識が増えた ・実際に目で見たものは知識の一つになった。P Cからのものはその場限りだった
	意欲	・身近に咲く花や草に関心が持てた ・花を見て知っている花だと嬉しかった ・今まであまり草花を見ていなかったが、見る機会ができたから
得られない	未受検	・まだ受検してないからわからない
	意欲	・似たような花が多くて覚えられない ・写真を撮ることが難しかった
	実践場面での未実施	・まだ働いてないので効果はないが、働いたら役に立つと思う
	活用できず	・その地域によって自然は違うから

なわとび

(表 5)

得られた	実践場面での活用	・保育にあたり一定の幼児体育指導能力が大切だと現場で感じ、学んだことが戸外遊び時に効果が大きいと感じた ・ボランティアでなわとびをする機会があったため
	スキル向上	・跳べなかったものが跳べるようになった ・現在、どれくらい自分の身体能力があるかを知る目安となる
	意欲	・スポーツが好きだから ・久しぶりにやって楽しかった
得られない	体力の問題	・ひざの調子が悪くなった ・高齢のため跳ぶ回数に無理がある
	意欲	・なわとびが苦手
	実践場面での未実施	・担当クラスの子どもは、なわとびができる年齢ではなかった ・なわとびをする機会がない
	活用できず	・なわとびだけでなく保育現場では色々な運動をするため、なわとびだけでは効果があまり感じられない ・小学生の時に跳べるようになったものばかりだから

4. 検定への取り組み姿勢について

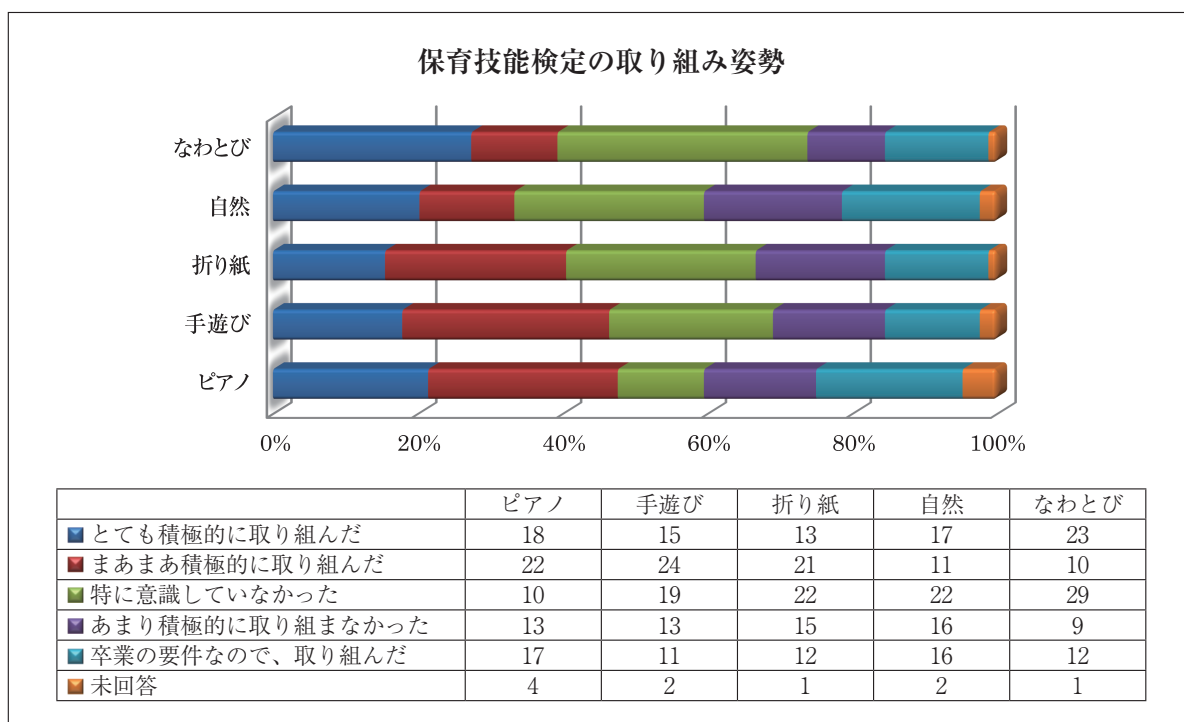
検定への取り組み姿勢については、図5のとおりである。

検定への取り組みに対して、「積極的に取り組んだ」、「まあまあ積極的に取り組んだ」という、積極的な意見の割合は、ピアノ 40 人（47%）、手遊び 39 人（47%）、折り紙 34 人（40%）、自然 28 人（34%）、なわとび 33 人（39%）になって

おり、また、「卒業の要件になっているので」という意見を加えると、消極的な意見である「あまり積極的に取り組まなかった」という回答を上回っている。

また、検定への取り組み姿勢について、その理由を自由記述で問う設問の回答を表6～10に示す。

（図5）



ピアノ

（表6）

積極性	とても積極的に取り組んだ	<ul style="list-style-type: none"> ・早い段階で努力し、合格して自分の技術の一つとしてものにしたいと思っている ・レパートリーを頑張って増やした ・入学してから始めたので必死に取り組んでいる ・音楽は好きであり、ピアノや歌も楽しく取り組める ・人前でピアノを弾くため技量を再確認することができる
	まあまあ積極的に取り組んだ	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノや手遊びは好きなので積極的に取り組めた ・レパートリーを増やしたかったから ・ピアノは得意ではないが、子どもとのコミュニケーションを図るために必要であると思うから
どちらともいえない	特に意識していなかった	<ul style="list-style-type: none"> ・一定量のスキルが必要と実習で感じたから ・ピアノができない ・まだバイエルが終わっていないため
消極性	あまり積極的に取り組まなかった	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノを弾くのが苦手だから ・最後まで残ってしまった
	卒業の要件になっているので、取り組んだ	<ul style="list-style-type: none"> ・全くできない状態だったが取り組んだ ・何でも学べば身に付き役立つと思うが、今の段階では資格取得が一番の目標になっている ・検定だが、すべてをやらなければいけないので強制されている感じがする ・合格しないと進級・卒業ができないため

手遊び

(表 7)

積極性	とても積極的に取り組んだ	<ul style="list-style-type: none"> ・保育現場で役に立つと思ったから ・自分が楽しくできるので取り組んだ ・いろいろな手遊びを覚え自分の得意なものを取得できた ・人前で笑顔を作って手本を見せる練習になる ・良い保育者になりたいから
	まあまあ積極的に取り組んだ	<ul style="list-style-type: none"> ・レパートリーを増やしたかったから ・子どもが興味をもって、遊びたいと言ったので
どちらともいえない	特に意識していなかった	<ul style="list-style-type: none"> ・後半から覚えられなくなった ・嫌いではないから ・難しい
消極性	あまり積極的に取り組まなかった	<ul style="list-style-type: none"> ・手遊びが難しい ・他項目を受検するから、大変で受けていない
	卒業の要件になっているので、取り組んだ	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に使えると感じている ・何でも学べば身に付き役立つと思うが、今の段階では資格取得が一番の目標になっている ・合格しないと進級・卒業ができないため

折り紙

(表 8)

積極性	とても積極的に取り組んだ	<ul style="list-style-type: none"> ・種類が多く、今後役に立つと考えた ・テキストを見ながら頑張った ・好きなので折れるものが増えて嬉しい ・折っていて楽しいと思う
	まあまあ積極的に取り組んだ	<ul style="list-style-type: none"> ・個人的に好きだったから ・教えてくれる仲間がいるから ・子どもが興味を持って、遊びたいと言ったので ・練習しないと覚えられないから ・保育現場でも折り紙は人気があったため
どちらともいえない	特に意識していなかった	<ul style="list-style-type: none"> ・折り紙など手先を使うものが得意だったため ・特に意識していなかった
消極性	あまり積極的に取り組まなかった	<ul style="list-style-type: none"> ・難しい ・手遊びほど楽しくないため ・嫌いだから
	卒業の要件になっているので、取り組んだ	<ul style="list-style-type: none"> ・あまり保育現場で使わないと思ったから ・何でも学べば身に付き役立つと思うが、今の段階では資格取得が一番の目標になっている ・合格しないと進級・卒業ができないため ・苦手なので後回しになる ・難しいが、受かるようには努力した

自然

(表 9)

積極性	とても積極的に取り組んだ	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩の時も道端の草花に目が向くようになった ・知らない植物を勉強できる ・ある程度知識があったので興味を持って取り組めた ・興味があるため、自然と頭に入る気がする ・頑張ってプリントを終わらせた ・放っておくと課題がたまっていくから
	まあまあ積極的に取り組んだ	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者になったら色々な花や環境に対応していくため ・子どもに教えるのに役立つと思ったから
どちらともいえない	特に意識していなかった	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩時などに子どもとの話題になると思ったから ・学校付近に花を見に行けたため、楽しく学べた ・似ているのが多いので、覚えるのが難しい ・観察ノートを作成する時間がない ・細かくやる必要がないと思う
消極性	あまり積極的に取り組まなかった	<ul style="list-style-type: none"> ・難しい ・やる意味がよく分からなかった ・なぜ覚えなくてはいけないのか分からない

消極性	卒業の要件になっているので、取り組んだ	<ul style="list-style-type: none"> ・何でも学べば身に付き役立つと思うが、今の段階では資格取得が一番の目標になっている ・合格しないと進級、卒業ができないため ・保育現場であまり使わないと思ったから ・観察ノートが手間取ったが、覚えるように努力した ・観察ノート提出のみでいいと思う ・写真を集めることが面倒である
-----	---------------------	--

なわとび

(表 10)

積極性	とても積極的に取り組んだ	<ul style="list-style-type: none"> ・得意分野のため ・なわとびが大好きだったので ・運動が好きだから ・すぐに合格できると思ったから
	まあまあ積極的に取り組んだ	<ul style="list-style-type: none"> ・回数は跳べないが正しい跳び方やなわとび遊びを学びたい ・昔を思い出しながら練習した
どちらともいえない	特に意識していなかった	<ul style="list-style-type: none"> ・保育現場でどれも使えると思ったから ・簡単だったから ・ちょっと練習すればできるから ・頑張りたいが足の負担を考えると怖い
消極性	あまり積極的に取り組まなかった	<ul style="list-style-type: none"> ・運動は元から得意だったため ・運動神経が鈍いので苦痛 ・跳べるから特に練習もしない
	卒業の要件になっているので、取り組んだ	<ul style="list-style-type: none"> ・何でも学べば身に付き役立つと思うが、今の段階では資格取得が一番の目標になっている ・合格しないと進級・卒業ができないため ・なわとびをするねらいが理解できなかった ・取り組む以前に体がついてこないため苦労した ・友達と支え合い競い合うことで楽しく学べた

ピアノと手遊び検定への取り組み姿勢については、「積極的に取り組んだ」と回答した者約 50%と多くあった。その理由として、「役立つ」、「好きだから楽しい」、「スキルアップのため」などというコメントが多くあった。また、ピアノは、学校入学後に始める学生が多く、そのため、積極的に取り組まないと検定が終わらないことが理由として挙げられている。

折り紙検定についても、手遊び同様、「好きだから楽しい」、「役立つ」などというコメントが多くあった。その一方、「難しい」、「苦手」などというマイナスのコメントもあった。

自然検定の取り組み姿勢は、「積極的に取り組んだ」と答えた学生が 34%と最も低かった。理由としては、「観察ノート作成に手間がかかり面倒だ」という声が多くあった。一方、「道端の草花に目が向くようになった」、「自然の知識が高まった」など前向きなコメントもあった。

なわとび検定は、積極的に取り組む姿勢はピアノや手遊び検定に比べて約 10%低い、「簡単だから何もしなくて合格した」、「得意だから」というコメントが多くあった。その反対に「苦手」というコメントが少数ながらあった。

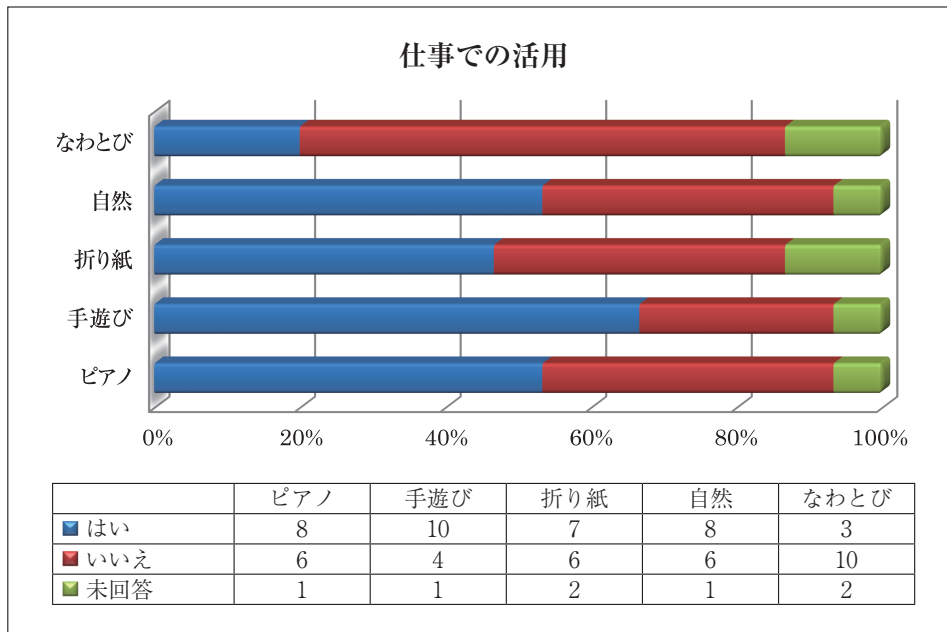
5. 保育技能検定の仕事での活用

保育技能検定の仕事での活用については、図 6 のとおりである。

仕事やアルバイト等で保育技能検定を活用しているかという問いに、活用していると回答した卒業生（15 名中）が、ピアノ 8 人（53%）、手遊び 10 人（67%）、折り紙 7 人（47%）、自然 8 人（53%）、なわとび 3 人（20%）いた。なわとびを除く、4 項目で活用率が高いことが分かる。

また、検定内容を活用したか否かについてその理由を自由記述で問う設問の回答を表 11 ～ 15 に示す（卒業生のみ）。

(図 6)



ピアノ

(表 11)

はい	保育の日常	・挨拶や昼食時に弾いている ・歌の時間にピアノを弾いている
	行事	・お誕生日会などのイベント時にピアノを弾いている ・知的障害者施設でのクリスマス会で行った
いいえ	実践場面での未実施	・使用する場がないため

手遊び

(表 12)

はい	保育の日常	・昼食からお昼寝のときなど、場面が変わるときに使用している ・挨拶や昼食時に使用している ・子どもに話をする前に集中できるよう行った ・子どもを落ち着かせるとき ・日中、時間が空くと何かと手遊びを行う ・現場で導入として使用することがたくさんある
	行事	・お誕生日会などのイベント時
いいえ		無記入

折り紙

(表 13)

はい	保育の日常	・自由時間など色々な遊びをする時、壁画など ・制作活動や自由遊びの時 ・土曜保育等で幼児と一緒に遊ぶ際に使用
	行事	・行事の準備
いいえ	実践場面での未実施	・折り紙を使用しない

自然

(表 14)

はい	保育の日常	・散歩では花や草等を見て感じて話し合うことが必ずあるため ・食育菜園を見に行った際 ・散歩中に子どもに声掛けをするとき
いいえ		無記入

なわとび

(表 15)

はい	保育の日常	・幼児クラスでは大縄を使用した
はい	行事	・運動会で使用した
いいえ	実践場面での未実施	・自分がやるより、子どもたちにどう教えるかを知りたい ・担当クラスがなわとびをする年齢ではないため ・なわとびをしない

6. 保育技能検定のプライベートでの活用

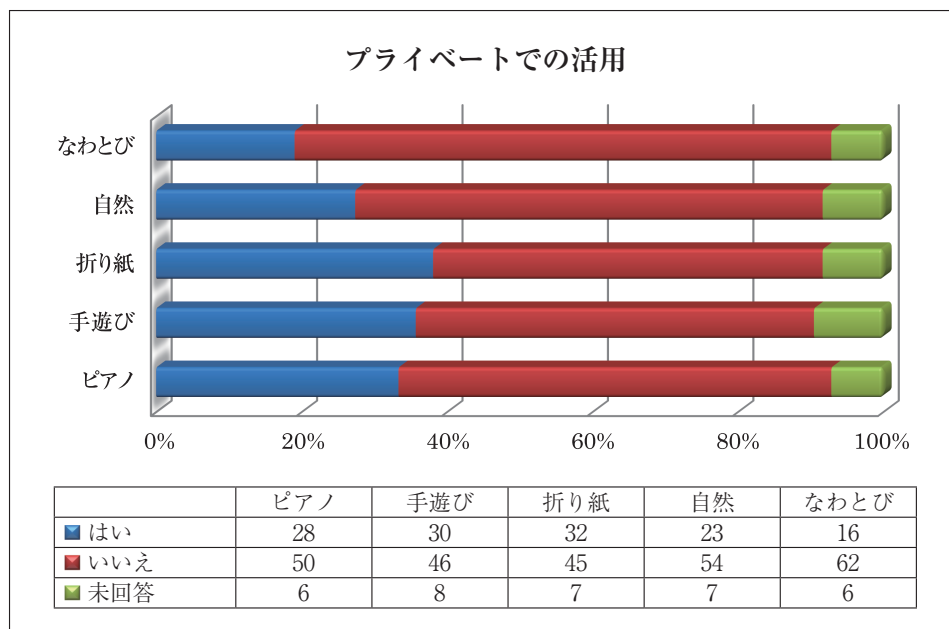
保育技能検定のプライベートでの活用については、図7のとおりである。

プライベートでの活用については、ピアノ 28 人 (33%)、手遊び 30 人 (36%)、折り紙 32 人 (38%)、自然 23 人 (27%)、なわとび 16 人 (19

%) の活用にとどまっている。なわとびに関しては、仕事での活用と同等に活用率は低くなっている。

また、検定内容を活用したか否かについてその理由を自由記述で問う設問の回答を表16～20に示す。

(図 7)



ピアノ

(表 16)

はい	自分の子どもや家族等との使用	・子どもと一緒に遊んだ ・育児の一環として ・孫と遊ぶため
	趣味・好きだからとの理由での使用	・ピアノは小学校から習っていて家にあるので ・趣味で ・昔、習っていた
	練習のための使用	・家でも練習をしているから ・子どもと一緒に練習している
いいえ	実践場面での未実施	・利用する場がない ・機会がない
	その他	・他のことで手一杯だから

手遊び

(表 17)

はい	自分の子どもや家族等との使用	・子どもと一緒に遊んだ ・育児の一環として ・孫と遊ぶため
	練習のための使用	・家でも練習をしているから
	ボランティア・実習での使用	・保育ボランティアで手遊びを行った際
	その他	・知人に地域での会議等での挨拶を頼まれた際に ・学校でどんな内容をしているか教えてと言われて
いいえ	実践場面での未実施	・使用する場面がない ・学外で使用する気になれない
	その他	・はずかしい

折り紙

(表 18)

はい	自分の子どもや家族等との使用	・子どもと一緒に遊んだ ・育児の一環として ・孫と遊ぶため
	ボランティア・実習での使用	・保育ボランティアで手遊びを行った際
	その他	・千羽鶴を折った ・仏壇の周りを飾った
いいえ	実践場面での未実施	・折り紙を折らない ・使用する場面がない ・学外で使用する気になれない

自然

(表 19)

はい	自分の子どもや家族等との使用	・自然に興味があり、子どもと一緒に近所に出かけた ・孫と遊ぶため ・子どもに植物の名前を教えることができた
	その他	・出かけたときに目につき、どの植物が分かると嬉しい ・知っているとい言いたくなる
いいえ	実践場面での未実施	・使用する場面がない ・学外で使用する気になれない

なわとび

(表 20)

はい	自分の子どもや家族等との使用	・孫と遊ぶため ・妹と一緒にやっている ・育児の一環
	練習のための使用	・長男と一緒に練習した
	体力・運動のために使用	・ダイエットのため ・運動のため ・体力向上
いいえ	実践場面での未実施	・使う機会がなかった ・学外で使用する気になれない
	その他	・楽しくないし、体に負担がかかる ・膝が痛いのでできない ・疲れるから

7. 自由記述

今回、使用した「保育技能検定 100 に関する調査」の質問項目で自由記述を求めたところ、その回答は個々の検定内容に関しての意見と、保育検

定全体への意見に分類できる。それらの意見は肯定的意見、否定的意見、要望意見の 3 つに分類できる。

(1) 個々の検定内容に対する意見

(表 21)

肯定	<p><u>ピアノ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要だと思うし楽しいから好き ・少し難しい。まだ練習する時間が足りないと感じたくらい
否	<p><u>ピアノ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽に対して進行の流れが明確ではないので不安になる。検定には 4 級から 1 級までであるが、それぞれの級にどの曲を弾いていいのかがよくわからない（曲のレベル） ・ピアノは急ぎすぎると指使いやリズムの悪いくせが残るのではないかと心配 ・音楽は暗譜は良いが、一度も間違えてはいけなは難し過ぎる ・バイエル 106 までやる必要がない。楽譜の暗譜をする理由が分からない ・保育検定はとてもきつけれど、バイエルが辛すぎる ・ピアノは初めてのため、ピアノの検定が受けられるようになるのはかなり先になりそうで少しさみしい <p><u>手遊び</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・手遊びの指導をしてくれないと分からない ・難しかった <p><u>手遊び・折り紙</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・手遊び、折り紙を先生から教えてもらえる時間を作ってほしい ・手遊び、折り紙は役に立たない <p><u>折り紙</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストを見てやってほしい、自分一人でするのも難しい。面倒だからなくていいかと思う。 <p><u>自然</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備が面倒 ・難しかった ・とても大変なので、写真はインターネットからとったり、学生間で共有できるようになると楽だと思う ・自然を調べたからといって覚えられない <p><u>なわとび</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要あるのか分からない。4 級から 1 級までたいして技術は変わってないため、あまり意味がないと思う ・なわとびは身体的にもきついが、あまり必要性を感じることができない。できることは頑張ろうという気持ちは強くあるが、体の負担を考えると無理はしたくない（クラスでも数名足に支障をきたしている） ・なわとびの必要性が分からない
要望	<p><u>ピアノ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・検定の時間をもう少し延ばしてもらいたい ・ピアノをやったことのない人に対して、もう少しハードルを下げしてほしい ・もう少し実際に弾くことのある曲にウエイトをおいてほしい ・童謡だけではなくリトミックがあったら良かった。100 曲頑張っても使わないと忘れてしまうので、100 曲は少し多いと思う ・バイエルは指をきちんと動かすためには必要だと思うが、実際、現場では使わないと思う。曲のレパートリーを増やしたほうがいい <p><u>自然</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然はテストなしのレポートのみでよいと思う ・最初は先生が草花の場所を教えてくれて写真を撮っていたが、今は自分で場所を探しているため統一してほしい <p><u>なわとび</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力的に無理な面があり、回数をクリアしなくてはならないので年齢にあった対応をしてほしい ・なわとびはもっと簡単にしてほしい、なくなってもいい

(2) 保育技能検定全体への意見

(表 22)

肯定	<p><u>自信や実力になる</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場に出て即戦力となるばかりか、他職業でも「やりきった自信」や何かの自己アピール時に使用できると思う。在校生の方々にも負けず嫌い魂を胸に頑張してほしい ・それぞれ身につくと自分の宝になると思う ・賛否両論はあるが真剣な保育者を目指す学生にはよい発奮材料となると思う。今後も続けてほしい ・保育検定があることにより、保育現場や色々な職場で必ず使い道があると思うので受けておいて良かったと思う。今後、自分に子どもが生まれた際なども知識を使って子どもにより良い生活を提供していけると思うし、他者の子どもに対しても楽しく接していけると思う <p><u>実践場面での活用</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職後、役に立ったので良かった
否定	<p><u>意欲</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全部難しい、面倒 <p><u>システム</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・3級まですべて終わらないと2級が受検できないのはどうかと思う ・保育技能検定100は少し難しいと思う
要望	<p><u>内容の工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・25種類のくくりで検定にすると、全てきちんとできる状態になるのは難しいように思う。例えば10種類ずつにした方がきちんと覚えられのではないかな ・この検定を通して実践的な保育を身につけることができたとと思う。検定としてさらに緊張感を持って取り組むことができれば保育技術向上に繋がると思う。絵本、紙芝居の読み聞かせや、在学中にもっとお遊戯のレパートリーを増やしたかったので「アンパンマン体操」「ミッキーマウス体操」「〇〇音頭」などのお遊戯を取り入れても良いと思う ・検定の範囲が広い。また、そこから出題されるものが5つくらいだったりして、たまたま合格した、というのも耳にする。せっかく覚えても範囲が広いと検定が終わったら忘れてしまうので、範囲が狭い方が良いと思う ・ルールをしっかり決めて、行った方が良い ・実習や就職した際に本当に現場で必要なものだけを検定にしてほしい <p><u>教員側の支援</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年毎年やり方を変えるならきちんとした説明が必要だと思う ・個人の意欲により差が出てしまうので、学生の意欲を引き出せるようにすると良い ・自分の当時のやる気の無さが影響し検定を活かせていないが、やり方次第で技術を高める一つになると思う。卒業要件であること、検定であること、意義あるものにすることであれば、それなりの環境を整えて徹底させた方がよいと思う。折り紙や手遊びは知っていればいるほど、子どもたちを楽しませることができると思う。今思うと、きちんと取り組んでいれば良かったと思うが、100種類は難しい気がする <p><u>授業のなかでの工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・忘れてしまうことが多いので、復習できるように何かをつくる ・検定に関わる技能なのでもう少し時間をかけて、授業のなかにも取り入れてほしい ・保育技能検定が卒業要件になっているので一生懸命取り組むという良い面もあるが、逆に授業中にまで折り紙をしてしまうなど、弊害も出ていると思う。授業の延長線上にあるものが検定の内容になっていると良いと思う
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・当時は検定が始まったばかりなので卒業要件になったこと等の不満があったと思う。また、やり方等も定まっておらず、さらなる不満があった。今思えば、しっかり取り組んでいれば良かったと思う技能ばかりだと思う

VI. 考察

卒業生や在学生へのアンケート調査をもとに、保育者養成課程における保育技能検定の意義とその可能性について、項目ごとに考察し、今後の課題についてまとめる。

1. ピアノ

(1) 意義とその可能性

ピアノは、聴覚の敏感な乳幼児に対する音楽的

環境をつくり出す基本的な媒介として、実際に多くの保育現場で使用している。ピアノの基礎技能から保育の現場のなかで流れている曲を保育技能検定のなかに組み込み、この保育技能検定を修了し保育者として保育のなかで活用した際に、子どもたちが音への関心や音楽への親しみを感ずることを目的としている。

調査の結果、問3の効果があつたかの質問では、全体の50%を超える学生が、効果が得られたと回答していた。ここからわかることは、本校では、1年時より音楽Ⅱの授業でピアノのバイエ

ル教則本を使用しており、89 番を前期の区切りとし、106 番を後期の区切りにしているため、ピアノは、この授業進度に則しており、効果が得られると回答する学生が多いのは予想できる。一方このアンケート調査をした時期であるが、前期 6 月であることから、ピアノを初めて習う学生にとってはまだ 89 番まで修了していない学生もあり、効果の程は分からないのではないかとと思われる。

問 4 の取り組みの姿勢であるが、「とても積極的に」、「まあまあ積極的に」、「卒業の要件になっているので」という姿勢で取り組んだとする者が、全体の 67% に上った。この結果も先に述べたように授業に直結した項目でもあるので、学生には保育技能検定に対する意識付けができていと考えられる。

本校では保育技能検定にピアノを導入し、授業に加えて保育検定と 2 つの取り組みを行うことで学生はより高い意識でピアノに取り組むことになっている。この基礎的な技能をしっかりと身に付けることで、保育者として保育のなかで活用した際に、子どもたちは音への関心や音楽への親しみを感じることができるのではないかと考察できる。

(2) 課題

平成 20 年度に改訂された「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」にある 5 領域の表現において、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通じて、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」とあり、その内容に「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう」とある。このことから実際には子どもたちへ、豊かな感性、自分なりの表現をして楽しむというようなことが提供できる保育者を育てることが養成校として求められているのである。以上の事柄により課題として、ピアノに代わる他の内容を模索し可能性を探る必要があると思われる。

2. 手遊び

(1) 意義とその可能性

手遊びは、保育現場等で子どもたちに集中を促す時、活動の合間など様々な場面で多くみられる。また、子どもとのコミュニケーション手段として多く用いられている。乳児のように言語でのやり取りが難しい段階の子どもとのやり取りに歌を使った遊びはとても人気が高いものである。

手遊びのメリットとしては、特別な道具を使うことなくできることである。場所を問わず子どもの関係づくりに役立つものである。手遊びの基本の形を理解しておくことで、独自に手遊びを発展させて行うことができるところにもメリットがある。

本校の保育技能検定 100 の「手遊び」では、手遊びの基本の形を習得し、子どもたちに意義ある手遊びが展開できるような援助ができるように、保育技能検定に取り組んでいる。そのため、採点基準としては、笑顔、声の大きさ、表情などの項目を設けている。手遊びの基本を習得することで、現場に出た際にその場の状況に合わせて手遊びを変化させていくことができ、年齢に合わせて応用していくこともできる。そのためにも、手遊びの基本を学んでおく必要がある。

調査の結果、問 3 の効果が得られたかという項目では得られたという意見が多くあった。そのなかで、「給食前に行くから」「就職後の導入がスムーズに行えた」と実践現場で手遊びを使って保育を行っていることが伺える結果となった。またこの結果を示唆するものとして、効果が得られないという結果のなかにある在学生の意見で「まだ働いてないので効果はないが、働いたら役に立つと思う」という意見があり、学生にも手遊びの重要性は理解を得ているのだろうと考えられる。そのため、問 4 にある検定に取り組んだ際の姿勢では「まあまあ積極的に取り組んだ」が 29% で、「とても積極的に取り組んだ」の 18% と合わせると約半数の学生が将来役に立つと感じて、積極的に手遊びの習得に取り組んでいたことが伺える。また、自由記述には「全部じゃないけどお気に入り

の手遊びが見つかったりしたから」とあるように、自分自身が手遊びを好きになり楽しむ姿勢も見られている。保育者を目指す学生がまず、手遊びを楽しむことはとても必要なことであり、「いっしょに活動して、こどもの感じているおもしろさのポイントをとらえることがヒントになる」⁴⁾ というように、実際に手遊びを子どもたちと行い、その反応を体感することが一番の学びである。それを経験した学生は、効果を得られたという回答を出しているのではないだろうか。

「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」の5領域の表現に「感じたことや考えたことを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」とあるように、表現することの楽しさを伝える喜び、共感することの大切さを学生たちが味わい、もっとたくさん知りたい、子どもたちに伝え、共に楽しさを共感したいという気持ちが芽生えていくような保育技能検定を心掛けていきたい。今後は、もっとたくさんの学生が学生のうちに授業やボランティアを通し実際の子どもの前で手遊びを行う経験を通し、その楽しさや難しさなどを感じることで、保育技能検定100の取り組み意欲へと繋がっていくことを期待したい。

(2) 課題

課題として、手遊びでは「手遊びの指導的なことをしてくれないと分からない」という意見があった。1年次の授業のなかで手遊びに取り組むこともあるが、2年間で資格取得を目指す上で授業時間として手遊びの時間をつくることは実質的に困難である。しかし、授業時間以外を使うなどして少しでも学生に手遊びを指導する時間をつくる必要があるだろう。また、教員に教えてもらうだけでなく、自分たちで練習するという意識づくりも大切な指導だと感じる。現在は、教科書を用意し、そのなかからの出題になっているが、教科書以外でも、実習先、ボランティア先で知った手遊びや自分で創作した手遊びなどを検定に取り入れて、さらなる意欲へと繋げていきたい。

3. 折り紙

(1) 意義とその可能性

折り紙は、日本の伝統的な遊びであり、作品には花、動物、道具、乗り物、装飾物など身近なものがある。保育者が多種多様な作品を作ることができることにより、それらをひとつの道具・手段・媒介として、保育を展開させ、遊びのなかに取り入れ発展していくように援助することができる。このように、折り紙を折ることの楽しさを伝え、子どもたちの創造性や表現する力を高めていくことを目的としている。

今回のアンケート調査で、折り紙の効果が得られたという回答は60%あり、その理由は、仕事等(実習)での活用のなかには実習中に子どもに折り紙で何か折ってほしいとリクエストされたり、壁面制作の時に活用したとの回答があった。また、プライベートでの活用では、子どもと一緒に遊んだ、千羽鶴を折った等が挙げられている。また、折り紙の効果が得られないとしている回答は29%あり、その理由は、園で折り紙を使用しない、使用する場面がないという回答であった。このことから、保育の場面やプライベートな場面でも保育者側が意識して折り紙を使用したり、園の取り組み(壁面制作等)として行う場面に限定されてしまうのではないかと考えることができる。さらに、折り紙は全体で行うよりも個人的にゆっくりと相手のペースも考えて行うものであるので、保育現場等全体で行う場合には、特に個人差を考慮する必要がある。そのため、食事時間の前などの自由保育やお帰り前などの延長保育等で子どもと保育者が少数対一での対応時に適している。

「折り紙の検定を受けることにより、実習中に子どもに折り紙で何か作ってと言われた時に折ることができた」、「現場で使えるレパートリーが増えた」という意見があるように折り紙検定の意義は、実際に実習で子どもたちと折り紙を通して交流を深めるため、現場で子どもたちに折る楽しさを伝えるためであると言える。また、「検定があることで覚えようとする意識が出た。」というやや消極的とも捉えられる意見があるが、取り組み

の姿勢については他の技能検定項目と比べ「とても積極的に取り組んだ」が一番少ない。「まあまあ積極的に取り組んだ」を入れると40%であり、5項目中の3番目となる。今後、検定で折り紙を覚えるためのよいきっかけにするとともに、最初のハードルを下げ、取り組みやすくするなどの工夫をすることが考えられる。

(2) 課題

課題として、実際に卒業してから利用している学生が一番多いのが折り紙であるという結果を在学中の学生に伝え、子どもが折ることができる折り紙についてだけではなく、学生に対して子どもが喜ぶ折り紙を意識して学んでいくこと、折り方を伝える必要があることを意識すると折り紙に対する積極的な意識付けが得られると考えられる。

4. 自然

(1) 意義とその可能性

自然では、1年を通して四季折々の身近な植物を観察し、植物の名称やその特徴、四季折々の変化などについて学ぶことを目標にしている。アンケート調査の結果、効果が得られたが56%、取り組み姿勢について積極的に取り組んだが50%以下という数値が出たのは、まだ、「自然」についての必要性を感じている学生が少ないことと、観察ノート作成に手間と時間がかかることが問題ではないかと考えられる。観察ノートについては、各級で25種類の植物の写真を撮り、その特徴について調べ、観察ノートを作成するなど、「自然の準備はめんどくさい」と回答する者もいた。その一方で、「効果が得られた」と回答する学生から、「散歩でお花を教えるから」、「散歩等の現場活動時にとても効果が得られた」、「実際に目で見たものは、知識になった」という回答からもわかるように、見学実習やボランティアなどを通し、すでにその必要性を感じている学生がいることが伺える。その他に「身近に咲く花や草に関心が持てた」「花を見て、知っている花だと嬉しかった」とあるように、自分自身が花や植物に興味や

関心を持ち、好きになり楽しむ姿勢も見られている。その楽しさを経験した学生については、効果を得られたという回答を出しているのではないだろうか。一方、今回の調査結果が示すように、半数の学生が植物そのものを観察することよりも100種類の植物の観察ノートを作成することに追われてしまって、植物観察を楽しめなかったことは残念なことである。また、自由記述のコメントで、「最初は草花の場所を教えてくれて写真を撮っていたが、今は自分たちで場所を探しているため統一してほしい」とあるが、初めの4級はやり方を理解する意味で、それらの植物の生息する場所まで一緒に行き写真を撮った。それ以降は、それぞれの植物の特徴を話したあと、学校から最寄り駅までの間に生息する植物なので、学生たちの気づきという意味で、植物の生息する場所を自分たちで探してもらうようにした。全学生が自然の主旨を把握できるように説明する必要がある。

田代幸代⁵⁾は、子どもの「健康と遊び」のなかで「自然の変化と自然の力、不思議さは、子どもの心を揺さぶり、そこからエネルギーを得て子どものからだは動きだす」と自然とのふれあいを通して、さまざまな遊びに展開することができる」と述べている。保育者として、子どもたちの自然とのふれあいの環境づくりへとつながるのではないかと考える。また、この検定を通して、自分たちの身近な自然に対して、五感を使って自然の素晴らしさを感じ取る感性を養ってほしいと願っている。

(2) 課題

課題として、自然検定における植物の数と種類について、見直す必要を考えるとともに、もっと多くの学生が植物に興味や関心を持ち、まず自分自身が楽しむことで、保育技能検定100の取り組み意欲へと繋がっていくことを期待したい。このような体験を活かして、保育者として保育現場などで、子どもたちに身近な自然の豊かさや大切さを伝えることができるのではないだろうか。

5. なわとび

(1) 意義とその可能性

なわとびでは、跳び方を習得することで保育者自身が運動遊びのひとつであるなわとびの楽しさを体感し、援助することや、跳び方のポイントを理解することを目的としている。

しかし、実際に保育技能検定でなわとびを行うことで効果が得られたと考えるものは30%、得られないと考えるものは60%と、学生は効果を実感できていないことが浮き彫りになった。これは現場でなわとびを行う機会が少ないという意見が目立った結果であろう。実際に、なわとびを仕事上で使ったかという質問に対して、使用したと答えたものはわずか20%である。回答者の80%が在校生だった影響も考えられるが、他の検定と比べても一番少なくなっている。さらに、「色々な運動をするため縄跳びだけではダメ」という意見があり、技術としての活用に結びつけていないことが分かる。なわとびの一つ一つの技術の可否を見る検定内容には限界があるのではないかと推測される。そのため、単になわとびをするだけでなく、結んだり、輪にしたり、つないだり、他の遊具と組み合わせたりしていろいろな遊びが展開できるような検定を行っていくことで可能性が広がるのではないだろうか。例えば、縄の長さを調節することによって友達との集団遊びに発展したり、一本の縄で多様な遊びが楽しめたりする。また、歌に合わせて色々な動作を組み合わせることにより遊びは発展し、高度なものに興味をもてるようになるだろう。このように、検定のなかになわとびを用いた遊びを取り入れていくことで、なわとびの得意不得意を超えて年齢に応じた発達を考えながら遊びを展開したり、子どもたちの創造性を広げていくことができる。乳幼児の発達を踏まえた上での運動遊びを考えると、検定内容にあるようなあやとびなどは必ずしも適切であるとは言えない。

(2) 課題

このような結果を考慮し課題として、なわとび

に代わる身体的な運動機能を使った内容の保育検定を考える必要があると考える。その一つとして、幼児体育の授業で取り入れている幼児体操が候補として挙げられている。

6. 補足

(1) 「利用する機会がない」という回答について

「V. 調査結果」の「3. 保育技能検定の効果」、「5. 保育技能検定の仕事での活用」、「6. 保育技能検定のプライベートでの活用」の調査結果には、「職場で利用する場がない」、「使用する場がないため」、「折り紙を使用しない」、「利用する場がない」、「機会がない」、「使用する場面がない」、「使う機会がなかった」などの回答が少数見られた。保育技能検定の活用がなかった主な理由として、在校生であることが挙げられる。この調査は、在校生が実習前に行ったものであり、子どもの前で活用する機会がなかったことが考えられる。また、実習等で、保育技能検定で身につけた技術を活用する場面はあったが、プライベートで活用する場がないということは、日ごろの生活のなかで子どもたちに触れる機会がないのではないかと推測される。

卒業生からの回答者は全体の2割と少数ではあるが、「V. 調査結果」の「3. 保育技能検定の効果」、「5. 保育技能検定の仕事での活用」では、「なわとび」を除くと、4項目それぞれについて約50%～70%の者が「効果が得られた」、「仕事で活用している」と回答しており、5項目を総合すると「効果が得られた」、「仕事で活用している」と回答した者は52%に達し、「職場で利用する場がない」等の回答をした者が少数であることから、限られたデータではあるが、保育技能検定は全体として効果を生み出していると考えられる。回答した卒業生の内訳は、専業主婦（1名）が含まれていたことや、保育現場で働いているが活用していない（1名）という結果があった。保育現場にしながら、ピアノや手遊びなどの保育技術を活用していないという結果については、乳児クラスの担当者、もしくは園の保育方法などに左右さ

れるのではないかと考えられる。回答してくれた卒業生については、全体の自由記述において、保育現場で活用しているという回答も多く、保育技能検定で身につけた技術は、それぞれの保育現場で生かされているといえるのではないだろうか。

（２）自由記述のコメントについて

「毎年やり方を変えるならきちんとした説明が必要」という記述は学生意見として掲載するが、「当時、試行錯誤で検定を実施してきたため、前年度の反省点をもとに改善し内容を一部変更してきた。そのことが、学生の混乱をきたしてきた結果となったため、より良いものにするためにも教員側が共通理解のもと、学生に徹底した説明をする必要がある。

おわりに

今回の調査では保育技能検定 100 を実施することによって、学生にとってどのような効果が得られているのかや、検定に取り組む姿勢などが分かった。また、在校生にとっての保育技能検定 100 に対しての捉え方と本校のねらいとしている部分との比較に大きく役立つ調査となった。この結果から、保育者養成校として、現場で役立つ保育を考える足掛かりとなった。教員一人一人が保育技術について考察し、現代の保育ではなにが求められているのか、学生が卒業後に現場で保育技能検定 100 を通して身に付けた技術を発揮するためには、どのような授業展開を行うべきなのかを再構築することが急務であると考えられる。また、学生は本校の保育技能検定 100 で修得した技術を実習やボランティアなどの保育の現場で幾度も実践し、独自の技術を身につけることで、本当の意味での保育技能の習得になり、子どもたちの発達に合わせて、場に応じた技術・技能を発揮することができるになればよいと考える。保育技能検定に取り組んでいる時に感じた個々の学生の姿勢や気持ちも、保育現場で子どもの育ちを考える時の貴重な材料となるだろう。

具体的な保育技能検定 100 の使用頻度などは、卒業生からの回答があまり得られなかったため、実際に卒業生が現場で使用しているのか、保育現場以外の施設に就職した学生はこの保育技能検定 100 をどのように活用しているのかというデータは少数しか得られなかった。卒業生からの回答数を増やしていくことは、これからの保育者養成校の可能性や本校の目指す保育者像に近づくための重要な要素となる。

今回の研究から、課題として検定項目や内容について再検討する必要があると考える。また、今後は、今回の調査で回答があまり得られなかった卒業生を含め、長期的に調査を行うとともに、質問紙の構成についても再検討をし、項目ごとの関係性をデータとして表す必要があるだろう。

引用文献

- 1) 竹林実紀子「保育技能とは何か」竹林実紀子編『保育技能の探究』建帛社、2004 年、pp.1-3
- 2) 厚生労働省「保育所保育指針」厚生労働省告示第 141 号（2008-3-28）. 2010 年 6 月 30 日
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku04/pdf/hoiku04a.pdf>
- 3) 文部科学省「幼稚園教育要領」文部科学省告示第 26 号（2008-3-28）. 2010 年 6 月 30 日
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you/you.pdf
- 4) 無藤隆「幼児教育の基本」無藤隆監修『事例で学ぶ保育内容＜領域＞環境』萌文書林、2010 年、p.26
- 5) 田代幸代「子どもの健康と遊び」無藤隆監修『事例で学ぶ保育内容＜領域＞健康』萌文書林、2008 年、p.90

参考文献

上記の引用文献の他に、以下の文献を参考にした。

- 石井智子「保育者養成校の学生は身近な環境をどう捉えているか—動植物や自然現象についての調査結果から—」『東横学園女子短期大学紀要』第43号, 2009年, pp.115-128
- 内山明子「保育者養成における保育方法論（子どもの遊び）に関する研究—手遊びからからだ遊びへの展開をめぐる—」『大阪青山短期大学研究紀要』第28号, 2003年, pp.19-22
- 亀井彩「自然に親しみ、植物や生き物に触れる」無藤隆監修『事例で学ぶ保育内容＜領域＞健康』萌文書林, 2008年, p.26
- 岸美智枝・尾添恵津子・岩尾温子他「なわとび遊びの発達段階における指導法の考察」『日本保育学会大会研究論文集』第29号, 1976年, p.158
- 木村貴紀「バイエルの使用から浮かび上がる音楽教育法のあり方」『共栄学園短期大学研究紀要』第25号, 2009年, pp.165-176
- 柏女霊峰・橋本真紀『保育者の保護者支援 保育指導の原理と技術』フレーベル館, 2008年
- 児嶋輝美「保育教材としての手遊び歌の現状と課題—データベースの作成を通して—」『徳島文理大学研究紀要』第77号, 2009年, pp.81-95
- 佐藤英文「短大保育科学生の植物知識に関する調査」『鶴見大学紀要 第3部, 保育・歯科衛生編』第45号, 2008年, pp.33-41
- 高田憲治「自然と触れ合う環境づくりの実践と課題 その2: 園庭の植物環境と子どもの遊びについての考察」『日本保育学会大会研究論文集』第55号, 2002年, pp.436-437
- 田中陽子・後藤千鶴子「保育者養成における折り紙指導の体系化 (II): 幼児の実態調査と基本形との関係」『日本保育学会大会研究論文集』第42号, 1989年, pp.436-437
- 待井和江『おりがみあそび130』チャイルド本社, 2006年

- 丸山京子「保育士養成校における実践的ピアノ指導についての一考察」『岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要』第37号, 2005年, pp.75-81
- 百瀬定雄・太田昌秀・田中ミイ子・山口亮子「スポーツ運動における循環運動の中間局面形成に関する研究」『日本体育学会大会号』54号, 社団法人日本体育学会, 2003年, p.556
- 梁川悦美「本学保育・児童学科における体育関連科目の果たす役割 (3): リズムなわとびに着目して」『東京家政大学研究紀要. 1, 人文社会科学』第48号, 2008年, pp.109-115
- 吉用愛子・奥田恵子「保育教材としての「手遊び」に関する一考察」『岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要』第40号, 2008年, pp.37-47
- 吉用愛子「保育教材としての伝承遊び“折り紙”について」『岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要』第39号, 2007年, pp.103-111
- レッズ・キッズ・ソンググループ『うたって楽しい 手あそび指あそび』ポプラ社, 2007年

注釈

- 注1) レッズ・キッズ・ソンググループ『うたって楽しい 手あそび指あそび』東京: ポプラ社, 2007年
- 注2) 待井和江『おりがみあそび130』東京: チャイルド本社, 2006年
- 注3) ピアノの検定においては、バイエル楽曲(89番まで)を修了していることが、保育技能検定100を受検できる前提となっている。

資料 1

保育技能検定100・検定票				学籍番号	学生氏名	
---------------	--	--	--	------	------	--

受験時にこの検定票を検定員（先生）に提出してください。

	音楽	手遊び	折り紙	自然	なわとび
4 級	バイエル89番まで と 弾き歌いの レパートリー1曲	[手遊び25種類] 25種類から 任意の3種類 自由選択2種類	[折り紙25種類] 25種類から 任意の5種類	[草花25種類] 自然環境ノート 25種類から 任意の10種類	[なわとび25] ふつとび (前まわし・後ろまわし) 各15秒以内連続25回
3 級	生活の歌…3曲 と 弾き歌いの レパートリー7曲 (生活の歌以外)	[手遊び25種類] 25種類から 任意の3種類 自由選択2種類	[折り紙25種類] 25種類から 任意の5種類	[草花25種類] 自然環境ノート 25種類から 任意の10種類	[なわとび25] けんけんとび (前まわし・後ろまわし) 15秒以内連続25回
2 級	準 生活の歌…4曲 と 弾き歌いの レパートリー10曲 (生活の歌以外)	[手遊び25種類] 25種類から 任意の3種類 自由選択2種類	[折り紙25種類] 25種類から 任意の5種類 他、得意な折り紙 3種類	[草花25種類] 自然環境ノート 25種類から 任意の10種類	[なわとび25] かけ足とび(その場とび) (前まわし・後ろまわし) 連続25回
	正 初見(初級)2曲 と 弾き歌いの レパートリー20曲				
1 級	準 初見(中級)2曲 と 弾き歌いの レパートリー35曲	[手遊び25種類] 25種類から 任意の5種類 自由選択5種類	[折り紙25種類] 25種類から 任意の10種類 他、得意な折り紙 5種類	[草花25種類] 自然環境ノート 25種類から 任意の10種類	[なわとび25] あやとび (前まわし・後ろまわし) 連続25回
	正 初見(上級)2曲 と 弾き歌いの レパートリー20曲				

※検定に合格した場合は、日付を記入し検定印を押印してください。

資料2

No. _____

自然環境観察ノート（草花・樹木など）

観 察 日； 年 月 日 （ ）

観察場所；

〔名； 〕 〔別名； 〕

特徴

<花期、樹高、葉花、その他：例えば茎
が中空である、樹液が乳白色など>

<葉・花の形：特徴のある葉・花の付き方など>

資料3

「保育技能検定 100 に関する調査」

【問1】性別と現在の年齢を教えてください。

1. 女性（ ）歳
2. 男性（ ）歳

【問2】本校卒業の有無と、差し支えない範囲で、現在の職歴と経験年数等を教えてください。

本校卒業の有無 卒業生 ・ 在校生 （○をつけて下さい）

1. 保育所勤務（託児所含む） 経験年数（ ）年
2. 保育所以外の社会福祉施設（障害者の施設、児童養護施設、高齢者の施設等）経験年数（ ）年
3. 一般企業（業種： ） 経験年数（ ）年
4. 学生
5. その他（ ）

【問3】保育技能検定 100 を受検することにより、効果が得られましたか。（○をつけて下さい）

また、得られた理由と得られなかった理由をお答え下さい。

技能名	効果（○をつけて下さい）	得られた理由・得られなかった理由（自由明記）
音楽	得られた ・ 得られない	
手遊び	得られた ・ 得られない	
折り紙	得られた ・ 得られない	
自然	得られた ・ 得られない	
なわとび	得られた ・ 得られない	

【問4】在学中の検定に取り組んだ際の姿勢についてお答え下さい。（○をつけて下さい）

設定：

1. とても積極的に取り組んだ。
2. まあまあ積極的に取り組んだ。
3. 特に意識していなかった。
4. あまり積極的に取り組まなかった。
5. 卒業の要件になっているので、取り組んだ。

技能名	取り組みの姿勢 （設定から○をつけて下さい）	取り組んだ姿勢の理由
音楽	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5	
手遊び	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5	
折り紙	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5	
自然	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5	
なわとび	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5	

【問5】保育技能検定100の技能を仕事（パート・アルバイトを含む）で使用したことがありますか。（○をつけて下さい）
また、使用したことがあるとお答えの方はどういう場面で使用したかを具体的にお答え下さい。

技能名	職場での使用（○をつけて下さい）	使用の理由・使用しなかった理由（自由明記）
音楽	使用したことがある・使用したことがない	
手遊び	使用したことがある・使用したことがない	
折り紙	使用したことがある・使用したことがない	
自然	使用したことがある・使用したことがない	
なわとび	使用したことがある・使用したことがない	

【問6】保育技能検定100の技能をプライベートで使用したことがありますか。（○をつけて下さい）
また、使用したことがあるとお答えの方はどういう場面で使用したかを具体的にお答え下さい。

技能名	プライベートでの使用（○をつけて下さい）	使用の理由・使用しなかった理由（自由明記）
音楽	使用したことがある・使用したことがない	
手遊び	使用したことがある・使用したことがない	
折り紙	使用したことがある・使用したことがない	
自然	使用したことがある・使用したことがない	
なわとび	使用したことがある・使用したことがない	

【問7】本質問、あるいは保育技能検定100について、何か思うことがあればご自由にお書きください。

質問終了です。多くの質問に対し、ご協力ありがとうございました。

よろしければ（任意です）お名前とご連絡先などをお知らせください。お知らせいただいた方には結果をお届けします。
（原則として、E-Mailで、PDFファイルを発送予定しております。）

お名前

E-Mail

(埼玉東萌短期大学 教授 正司 顯好)
 (埼玉東萌短期大学 教授 栗本 浩二)
 (埼玉東萌短期大学 教授 落合 知美)
 (埼玉東萌短期大学 准教授 ○土井 晶子)
 (埼玉東萌短期大学 講師 前徳 明子)
 (埼玉東萌短期大学 講師 高林穂津美)
 (埼玉東萌短期大学 講師 ○岩崎 桂子)
 (埼玉東萌短期大学 講師 ○伊藤 陽一)
 (埼玉東萌短期大学 助教 ○黒沼 茉未)
 ○を付した者は、論文の主たる執筆者